

臨床実習計画書

区分	内容等
科目名	総合臨床実習 I
学 科	理学療法学科
開講年次	3年生
実習調整者	西山 栄一
実施時期	令和6年4月15日～6月7日
実習時間 及び 単 位	①実習時間 ●客観的臨床能力演習・評価 / 45時間 ●施設実習 / 360時間 ②単位 9単位(405時間)
実習先	病院、医院、介護保険関係施設
実習目的	総合臨床実習は、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および理学療法プログラムの立案、治療実践ならびに治療効果判定などを学びます。実習生が診療チームの一員として加わり、実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習となります。様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学びます。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務について理解を深めます。さらに、対象者を通じて、地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等についても学びます。
到達目標	1. 実習指導者をはじめ医療スタッフや対象者に対して、適切な態度で対応することができる。 2. 基本的な理学療法の情報収集、評価方法の選択し実施することができる。 3. 実施した評価結果から障害像を把握し、問題点・目標設定・理学療法プログラム立案ができる。 4. 立案した理学療法プログラムを実施できる。 5. 実施した理学療法プログラムの治療効果判定ができる。 6. 実施した理学療法評価・理学療法プログラム・治療効果判定について適切に記録・報告することができる。 7. 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメントについて適切に記録・報告することができる。
実習内容	実習期間は9週間(1週間学内実習、8週間施設実習)とする。 実習開始前に事前セミナーを行い、実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。さらに実習終了後には事後セミナーを行う。事後セミナーは、実習経験報告(書類提出含む)、事例検討等からなる。実習生は、実習課題を中心に、臨床実習の経験を通じた学びについて要点をまとめて簡潔に発表する。 「課題」 1. 総合臨床実習 I 出席表への記入(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション含む) 2. 熱計表、行動履歴表への記入 3. デイリーノートの作成 4. 症例記録、症例レジュメの作成 5. 総合臨床実習チェックリス I・II、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションチェックリスト別紙「総合臨床実習 I・II チェックリスト」、「通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションチェックリスト」に見学・協同参加・実施内容を記入し、実習指導者へ報告する。
評価方法	総合臨床実習 I の評価は、出席状況、提出課題、総合臨床実習 I 実習成績表、学内実習、セミナーを総合的に判定して単位認定を行う。なお、総合臨床実習 I 期間の出席が出席日数の2/3に満たない場合および学生の心得に反した際は評価の対象とならないことがある。

区分	内容等
科目名	総合臨床実習Ⅱ
学科	理学療法学科
開講年次	3年生
実習調整者	西山 栄一
実施時期	令和6年月24日～8月16日
実習時間 及び 単位	①実習時間 ●客観的臨床能力演習・評価 / 45時間 ●施設実習 / 360時間 ②単位 9単位(405時間)
実習先	病院、医院、介護保険関係施設
実習目的	総合臨床実習は、評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および理学療法プログラムの立案、治療実践ならびに治療効果判定などを学びます。実習生が診療チームの一員として加わり、実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習となります。様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学びます。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務について理解を深めます。さらに、対象者を通じて、地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等についても学びます。
到達目標	1. 実習指導者をはじめ医療スタッフや対象者に対して、適切な態度で対応することができる。 2. 基本的な理学療法の情報収集、評価方法の選択し実施することができる。 3. 実施した評価結果から障害像を把握し、問題点・目標設定・理学療法プログラム立案ができる。 4. 立案した理学療法プログラムを実施できる。 5. 実施した理学療法プログラムの治療効果判定ができる。 6. 実施した理学療法評価・理学療法プログラム・治療効果判定について適切に記録・報告することができる。 7. 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメントについて適切に記録・報告することができる。
実習内容	実習期間は9週間(1週間学内実習、8週間施設実習)とする。 実習開始前に事前セミナーを行い、実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。さらに実習終了後には事後セミナーを行う。事後セミナーは、実習経験報告(書類提出含む)、事例検討等からなる。実習生は、実習課題を中心に、臨床実習の経験を通じた学びについて要点をまとめて簡潔に発表する。 「課題」 1. 総合臨床実習Ⅱ出席表への記入(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション含む) 2. 熱計表、行動履歴表への記入 3. デイリーノートの作成 4. 症例記録、症例レジュメの作成 5. 総合臨床実習チェックリストⅠ・Ⅱ、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションチェックリスト別紙「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱチェックリスト」、「通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションチェックリスト」に見学・協同参加・実施内容を記入し、実習指導者へ報告する。
評価方法	総合臨床実習Ⅱの評価は、出席状況、提出課題、総合臨床実習Ⅱ実習成績表、学内実習、セミナーを総合的に判定して単位認定を行う。なお、総合臨床実習Ⅱ期間の出席が出席日数の2/3に満たない場合および学生の心得に反した際は評価の対象とならないことがある。